



これからの時期に多い肺炎 レジオネラ症にご注意！

令和4年4月13日

富山県感染症情報センター
(富山県衛生研究所内)
(0766-56-5431 直通)

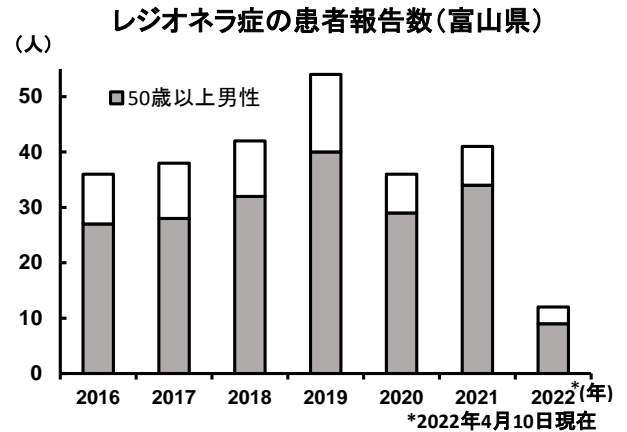
感染症発生動向速報

(令和4年第14週分・4月4日～4月10日)

《インフォメーション》

●レジオネラ症

レジオネラ症はレジオネラ属菌による感染症で、主に公衆浴場、循環式浴槽、加湿器、ビルの屋上などに設置された冷却塔の水中で増殖したレジオネラ属菌を含むエアロゾルを吸入することで感染、発症します。レジオネラ属菌は土壌や水環境にも存在するため、菌に汚染された環境水や粉塵を吸入することによっても感染する場合がありますが、ヒトからヒトへと感染することはありません。県内での過去5年間におけるレジオネラ症の報告数は、年間36～54人で推移しています。今年4月10日までに12人報告されています。患者の年齢・性別には偏りがあり、県内では50歳以上の男性が患者全体の7割以上を占めています(図参照)。また、富山県におけるレジオネラ症の罹患率(人口あたりの患者報告数)は全国の都道府県と比較して高くなっています。レジオネラ症は年間を通して報告されますが、特に夏季に増加する傾向があります。



レジオネラ症の主な病型は肺炎です。2～10日の潜伏期の後に、全身倦怠感、頭痛、食欲不振、筋肉痛などで発症し、咳や38℃以上の高熱、悪寒、腹痛、呼吸困難が見られるようになります。しばしばみられる症状として、頭痛、傾眠、昏睡、脳炎症状などの精神神経症状があります。治療には抗菌薬の投与を行いますが、レジオネラ属菌に適切な抗菌薬治療がなされないと死に至る場合もあります。このため医療機関においては、尿中抗原検出キットを用いた迅速検査を行い、適切な抗菌薬(キノロン系薬、マクロライド系薬)による治療を早期に開始することが求められます。また家庭では追い炊き機能付き風呂、24時間風呂、加湿器などに付着した「ぬめり」にレジオネラ属菌が生息しやすいため、取扱説明書に従い定期的に洗浄などを行い、適切に管理することが感染対策につながります。

レジオネラ症の主な病型は肺炎です。2～10日の潜伏期の後に、全身倦怠感、頭痛、食欲不振、筋肉痛などで発症し、咳や38℃以上の高熱、悪寒、腹痛、呼吸困難が見られるようになります。しばしばみられる症状として、頭痛、傾眠、昏睡、脳炎症状などの精神神経症状があります。治療には抗菌薬の投与を行いますが、レジオネラ属菌に適切な抗菌薬治療がなされないと死に至る場合もあります。このため医療機関においては、尿中抗原検出キットを用いた迅速検査を行い、適切な抗菌薬(キノロン系薬、マクロライド系薬)による治療を早期に開始することが求められます。また家庭では追い炊き機能付き風呂、24時間風呂、加湿器などに付着した「ぬめり」にレジオネラ属菌が生息しやすいため、取扱説明書に従い定期的に洗浄などを行い、適切に管理することが感染対策につながります。

《全数報告の感染症》

- 新型インフルエンザ等感染症 新型コロナウイルス感染症 1,128件(暫定値)
- 二類感染症 結核 5件(①第13週診断分:20歳代、女性 ②第13週診断分:60歳代、女性 ③30歳代、女性 ④50歳代、男性 ⑤80歳代、男性)
- 五類感染症 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件(第13週診断分:80歳代、男性、A群)
- 侵襲性肺炎球菌感染症 1件(第13週診断分:70歳代、男性)
- 梅毒 1件(第13週診断分:40歳代、男性、早期頭症梅毒I期)

《定点報告の感染症》

今週の県内上位6疾患		定点あたりの数	
順位	疾病名	今週(増減)	先週
1位	感染性胃腸炎	5.31(↑)	3.90
2位	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.48(↓)	0.66
3位	RSウイルス感染症	0.31(↓)	0.76
4位	流行性角結膜炎	0.29(→)	0.29
5位	突発性発しん	0.24(↓)	0.38
6位	咽頭結膜熱	0.14(↑)	0.07

○感染症発生動向調査報告状況（令和4年第14週 令和4年4月4日～令和4年4月10日）

分類	疾患	今週報告分（第14週）							累積報告数（令和4年第1週（1月3日）～）						
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	その他※2	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	その他※2	計
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	114	121	274	146	456 ^{※1}	17	1,128	2,215	2,027	5,557	2,080	12,892 ^{※1}	101	24,872
二類感染症	結核			2	1			3	1	2	10	5	12		30
四類感染症	レジオネラ症								2		3	1	6		12
五類感染症	アメーバ赤痢										1		1		2
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症											1	2		3
	急性脳炎										2				2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症								2		3		3		8
	侵襲性インフルエンザ菌感染症												1		1
	侵襲性肺炎球菌感染症											1		2	3
	水痘（入院例）													1	1
	梅毒									1		4	2	11	18
	播種性クリプトコックス症													2	2
定点疾病 (下段は定点当たりの患者数を示す)	インフルエンザ											1			1
	RSウイルス感染症	2		4		3		9	27	16	207	56	268		574
		0.50		0.50		0.30		0.31							
	咽頭結膜熱		3	1				4	19	12	104	7	34		176
			1.00	0.13				0.14							
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	1	4		8		14	19	8	59	19	116		221
		0.25	0.33	0.50		0.80		0.48							
	感染性胃腸炎	17	11	46	12	68		154	275	330	726	280	827		2,438
		4.25	3.67	5.75	3.00	6.80		5.31							
	水痘		1			1		2		4	7	1	13		25
			0.33			0.10		0.07							
	手足口病								1	8	42	3	47		101
	伝染性紅斑								1		3	1	1		6
	突発性発しん	1	1	2	2	1		7	8	8	38	11	21		86
		0.25	0.33	0.25	0.50	0.10		0.24							
	ヘルパンギーナ	1						1	37	7	21	1	6		72
	0.25						0.03								
流行性耳下腺炎								1		2	1			4	
流行性角結膜炎	1	1					2	5	2	1				8	
	1.00	1.00					0.29								
細菌性髄膜炎												1		1	
マイコプラズマ肺炎											1			1	
インフルエンザによる入院患者（※3）											3	1		4	

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

※1 県報道資料の判明日調査中は、公表前日を判明日とした暫定値です。 ※2 その他は県外、居住地非公表分です。

※3 インフルエンザによる入院患者累計報告数は、令和3年第36週(9月6日)～の集計です。